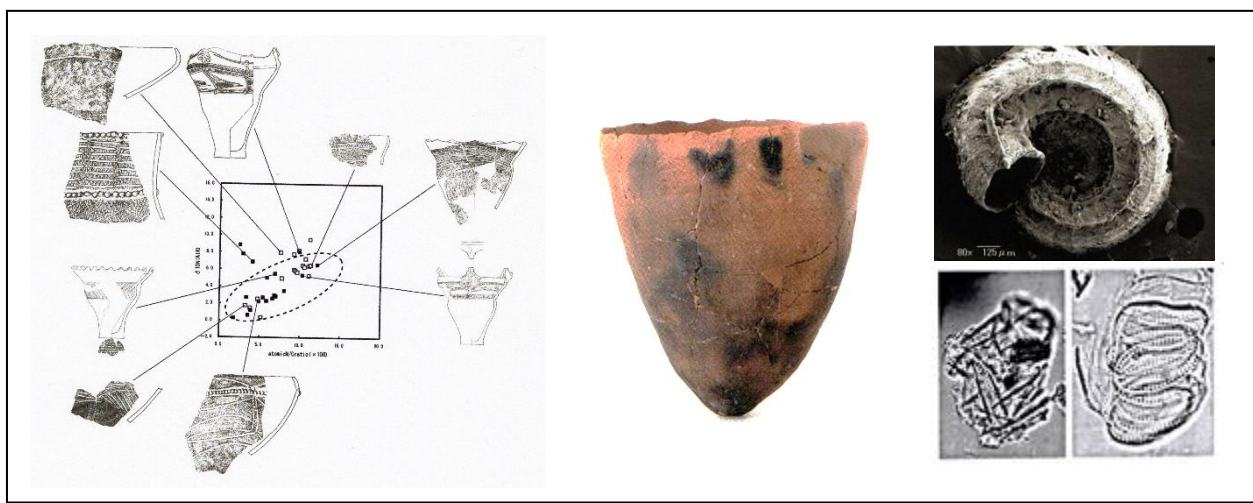


縄文土器の用途解明に関する学際的研究

～ 特定資源の利用強化と縄文土器の用途～

10月29日(日) グローバルホール
先着70名 対面のみ 無料配布資料有
9時30分 受付開始 10時開演



明治大学資源利用史研究クラスターでは縄文土器の用途を解明するために土器付着炭化物の同位体分析と土器付着土壌と堆積物の微化石の分析をおこなってきました。本シンポジウムでは縄文土器で何を加工・調理したのかという問題について縄文土器の型式学とともに理化学的な分析・動物考古学を組み合わせ研究してきたこれまでの成果を公開し、課題を整理して今後を展望したいと思います。

プログラム

開会のあいさつ・主旨説明 (阿部芳郎)

第1部 土器付着炭化物の同位体分析の成果

発表1 土器付着炭化物の同位体分析による草創期・早期の土器の用途(米田穰)

発表2 縄文早期の動物遺存体からみた生業(樋泉岳二)

発表3 中部高地の中期の様相(会田進)

発表4 中部高地の晩期の様相(中沢道彦)

第2部 生業の地域性と土器の機能

発表5 後・晩期土器の機能の多様化と生業(阿部芳郎)

発表6 水場遺構の形成と土器の用途(宮内慶介)

総合討議(15:30~17:00)「縄文の生業の多様性と土器の機能・役割を考える」